

No.111

1995.

11. 1

# 改革の博物館

編集兼発行  
〒501-32 関市小屋名  
(百年公園内)  
岐阜県博物館内  
岐阜県博物館協会  
TEL 0575-28-3111(代)  
振替 名古屋 6 37909

## 協調・対話

沢田正彦



戦後、民主教育が我が国の教育史のうえで、大改革として取り入れられて今日まで、半世紀が経過しました。

この間の時代の変化と共に、学校も家庭もその姿が大きく様変わりをして来ました。今の小・中学生は自主性、主体性がいろいろの面で成長してきましたが、その一方で、一部とはいえ、いじめ、不登校などの行動あるいは、学校週五日制に関する事など、教育課題が多くあります。

四月にスタートしました中央教育審議会でも、その検討課題の第一は、「今後における教育の在り方及び、学校、家庭、地域社会の役割と連携の在り方」についてであります。「学校教育の果たすべき役割は何か。」そして、「連携とは何をすることなのか。」は、まさに、当を得た課題であります。

学校、家庭、地域社会のそれぞれが、お互いに不信感をもってはなりません。この三者の連携は教育全体像にかかる問題でもあります。特に、学校と家庭との連携、信頼は子どもの教育の基本として極めて重要な課題であります。

これらの課題審議は、中央教育審議会だけでなく、校長会でも学校、家庭、地域のみならず方と検討するよい機会と考え、県PTAをはじめ、多くの方々と協調して解決にあたるため、

懇談をもっているところです。

このことにより、「連携」のあるべき姿を求め、それぞれの役割を自覚し、積極的な教育姿勢を確かめていきたいと願っています。

ご承知と思いますが、現教育課程の基本になっている教育目標は、

- ・ひろい心、すこやかな体、豊かな創造力
- ・自由・自律と公共の精神
- ・世界の中の日本人
- と、されていますが、中でも、
- ・人格の完成を目指す基本としての広い心
- ・人生八十年代の人間の幸福の基礎としてのすこやかな体
- ・新しい文化、芸術、科学を生み出す豊かな創造力

は中心的な教育目標と考えます。その上に立って、我が国がいまだかつて経験したことのない国際社会と相互依存を通して、平和的な国家や社会の形成者にたくましく育てほしいと願わずにられません。

現在の物質的繁栄や、教育の量的拡大が子どもの心身の健康に危機となってはなりません。

今こそ、教育の役割を殊に学校、家庭、地域において自覚し、協調、対話の中で、精神的にも肉体的にも、たくましい児童生徒を育てたいと念じています。

(岐阜県小中学校長会長)

## 第65回 公開講座報告

# 「書の紙」

とき 平成7年8月19日  
ところ 美濃和紙の里会館  
講師 佐藤 浩氏



第65回公開講座は、美濃市蕨生の美濃和紙の里会館で行われました。

講師の佐藤浩先生は、現在は当会館の館長でいらっしゃいますが、昭和24年に岐阜県紙業試験場にお勤めになり、昭和52年同試験場長、昭和57年岐阜県工業技術センター場長を経て、昭和60年に同センターを退職になるまで、36年間にわたり「紙」と関わりをお持ちになった方です。

今回の講演会では美濃和紙のことを中心に、和紙についての様々なお話しをしていただきました。

講演の後、参加者の方々は美濃和紙の里会館見学、紙すきの体験実習を楽しまれました。

### 講演要旨

#### 1. 美濃の紙の生い立ち

西暦610年、高麗（韓国）の曇徴という人が日本へ渡来し、筆、墨、紙をつくる技術を広めたといわれている。

美濃では、現在の揖斐郡坂内村、本巣郡根尾村、不破郡垂井町、山県郡美山村、美濃市、武芸川町で紙ができるようになった。美濃紙の記録

として、最も古いのは、正倉院に大宝2年（702年）美濃国山県郡の戸籍をかいたものが現存しており、当時の美濃和紙が沢山収蔵されている。

昔から美濃和紙が有名になったのは、他県の和紙に比べ紙肌がきれいであるからで、文字を書くのに適しているからである。当時は仏教が盛んになり写経用紙として、沢山の美濃和紙が使用されるようになり、記録保存用紙として神社、寺院で使用された。

#### 2. 美濃和紙の原料と紙の用途

楮、がんび、みつまたが主原料であるが、書の紙として古くから使用されていたのが、がんび、楮である。がんびで抄いた紙は、表面が滑らかで文字をかいたとき、にじまないのが写経用紙として最適であり、また和紙、かな文字、草書を書く紙として愛用されてきた。

楮で抄いた紙は厚目の紙が多く、奉書紙（書の紙、賞状用、記録保存用）として朝廷、幕府、上流社会において沢山使用されるようになった。現在市販されている書の紙（画仙紙）は楮のほかに竹パルプ、古紙を再生したもの、それらの原料を適度に混合したもの（書道半紙）がある。

（佐藤 浩）



（紙すき体験実習を楽しまれる参加者の皆さん）

## 第32回 会員研修会報告

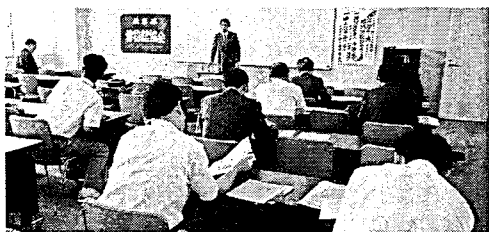
# 西濃地区を例とした地域博物館のあり方

期日：平成7年9月20日（水）13時～17時

場所：大垣市サイトピアセンター学習館

〈事例発表〉「開館後の歩みと今後の展望」

垂井町タリピアセンター 鈴木隆雄氏



発表の場

不破郡垂井町タリピアセンター「歴史民俗資料館」は、平成6年4月に開館した。本資料館には、地域に密着した活動を目指して、常設展以外に企画展、コーナー展示、講演会、講座・教室などの活動がある。開館2年目と日が浅いが、垂井町と一体となって、資料館を歴史・文化の情報発進基地に育て上げていっている。

本資料館の常設展は大昔のくらし、稲作の始まり、古代の垂井、中世の垂井、竹中半平衛、宿場町、近代の教育、まつりと民俗などを展示している。企画展では、平成6年度に竹中家とその家臣団、戦時下の暮らし、明治近代国家の推進者・神田孝平、平成7年度に芭蕉と垂井の俳人たち、ふるさとの学校展、日本近代洋画の推進者・長原孝太郎（10/15より）が開催された。コーナー展示・講演会・講座では、むかしの生活・石器作り・手すき葉書・わら細工・子供の歴史教室ほか、地域に密着した事業が豊富に企画され、盛況を得ている。とくに、コーナー展示「濃尾大震災」では予想をはるかに越える多数の入場があった。

今後は、企画展や講演に加えて、大道芸的なものを取り入れたり、垂井の文学を全部紹介していくことを計画している。また、現地見学も

計画していきたい。

〈講演〉「郷土館10年の歩み」

大垣市郷土館長 高木秀之氏

大垣市郷土館は、戸田公入城350年の記念事業として昭和60年に建設され、今年で10年目を迎え、この秋に10周年記念事業が計画される。本館では歴代大垣藩主戸田公の顕彰を中心に、郷土の歴史を紹介している。本館ではこの10年間、郷土の歴史遺産の寄贈を受けながら、豊かな郷土の歴史を発掘して特別展や企画展、あるいは子供教室を開催して、郷土の先人の足跡を顕彰してきた。そのなかで関ヶ原合戦絵図屏風や朝鮮山車遺品などは遠方からの来館者にも注目され、重要なものとなっている。

平成2年の5周年記念行事には、特別展示と合わせて、郷土の美術家守屋多々志氏の講演会を持った。この10月には10周年記念展として、幕末愛国の青年志士「所都太郎展」を企画し、5周年記念以降の資料も加えた図録作成が計画されている。特別展は例年年2～3回企画されている。



大垣市郷土館

〈見学〉講演終了後、会場内の「子どもサイエンスプラザ」では、科学が気軽に体験できる展示を見学した。「大垣市郷土館」では、貴重な歴史遺産とすばらしいサツキを見学することができた。

（研修委員 鹿野勘次）

(特別寄稿)

# 参加した国際会議 ICOM 委員会について①

吉田幸平



大会会場入口で

ICOM (International Committee of Museum) とは世界の国々の博物館に勤務している人の、専門職として博物館の展示、研究、企画、実践等をしている人達が3年に1回集まって、資質向上のためにその研究を発表する集いである。博物館の財政、経営、管理教育展示等あらゆる分野が含まれる。

博物館といっても自然、人文等それに公立、私立が含まれる。(自然では、動物園、植物園、水族館、自然史博物館)。人文では、歴史博物館、民族博物館、民俗博物館、建築博物館等人間のかかわりのある総ての博物館を包含するので、その種類は甚だ多い。それを種類別の縦割りの協会、地域の協会等、その組織は多岐に別れている。この会議では、それらの分科会が約20に別れて、それぞれに発表し、討論する博物館のオリンピックなのである。だから1人1

人がその道におけるスペシャリストであり、鼻天狗の専門家の集いなのである。

従って、社会教育や生涯教育におけるベテランの雄ばかりで、喋らせると、滔々と喋る連中なのである。

名刺を交換すると、博物館長、主任学芸員、研究所長等のその国での知識人でもある。集まるとそれぞれの民族衣装を着て参加する者もいる。この組織の本部はフランスのパリにある UNESCO (United Nations Educational Scientific and Cultural Organization) 国連教育科学文化機関の下部組織でもあり、強固な組織でもある。

日本は戦後、この組織に参加したが、ICOMへは遅れてロンドン大会から参加した。私はパリICOM、コペンハーゲンICOM、モスクワICOM、メキシコICOMに参加し、今回のノールウェーに参加した。日本人としては古いメンバーといえるかも知れない。

## 日本の博物館への過程

日本の博物館界は、世界から見ると極めて立ち後れた世界なのである。第二次世界大戦に破れた灰燼の中から復興に立ち上がり、そして先ず、日本の民主化のため、昭和30年代は、各地に民主化のための公民館活動が提唱された。よって各地域で日本の民主主義への啓蒙運動が起きた。それは占領軍の指導もあったが、軍国主義から民主主義への日本人へのマインド・コントロールの時代でもあった。従って各地域、校下別に公民館が建ち民主教育が長く続けられた。この時代は新しい日本の夜明けといえるもので、日本人が時間の世界から空間の世界への

活眼であった。

昭和40年代は、図書館活動の時代であり、各地区に小さな図書館ができた。巡回図書館までできて社会教育のために大きく貢献した。それがため図書館のない市町村はない程の建設ラッシュが続き、その内部も各種のサークルができた。公民館活動と平行して、日本の民主化に貢献した社会教育施設の出現した時代でもあった。

昭和40年から50年になると、日本人の経済は驚異的に伸び、ドイツを追い越して、発達率はアメリカに次ぐものをもった。現在では、世界一のGNPの国となったのである。この頃から、日本の社会は貧から富める国へと展開したのである。そして、博物館が大きく社会教育の中に位置を占めてくるようになった。日本博物館協会に登録博物館が昭和40年代には、全日本で1000館がなく、協会運営も苦しかったが、現在は、4500館となり、博物館ラッシュの時代となった。その初めは、北海道開拓記念館、埼玉県大宮博物館、青森県立博物館、鳥取県立博物館等、地方都市から口火が切られていった。現在では、県立博物館、県立美術館等の大施設をもたない県がない程、各県はその施設を建設した。

岐阜県では戦前、県立図書館が、美江寺観音本山の東、現在の教育会館に、小さなものがあった。岐阜県立の博物館が関市の百年公園の山中に開設したのが20年前であり、県の美術館は、まだ12年前に開いたに過ぎない。まだ独立した自然史の博物館は岐阜県にはない。この意味で、日本の博物館は、遅れた追従の世界なのである。その点、インドなどは、英国植民地下に英国が開設して、100年以上の歴史をもっている。

私は昭和37年5月、岐阜県立博物館協会設立準備委員会に、先代の名和昆虫館長と郷岐阜城館長の呼びかけで、岐阜市水道山のユースホ

ステルに集まって、立案し、昭和40年10月に、正式に岐阜県博物館協会を設立した。そして協会事務局長をやらされた。

予算なし、そして、その年の秋、東海博物館協会の総会を岐阜県が担当したが、その頃モデルにするマニュアルもない時代であった。高山市長に陳情して高山で開催した。その頃、高山は、まだまだ山の中の眠った町であったが、将来観光産業都市として行ける町という意味で開いた。岐阜県博物館協会の関係と私の甲冑研究所も、その類似の施設として、仲間に入れて貰った。

県下の小さな各施設を調べたら、100館を越していたのに意を強くした。その頃学芸員資格をもったM氏やO氏の2人の青年教師の情熱的な支援を絶対に忘れることはできない。こういった環境から、私は博物館と関係もつようになって、多くの博物館を歩き、やがては世界の博物館を歩く博物館巡礼の虜になった。そして、世界で大きい博物館を殆んど歩いたのである。それが今回のノールウエー行きの一因にもなっている。

(続く)

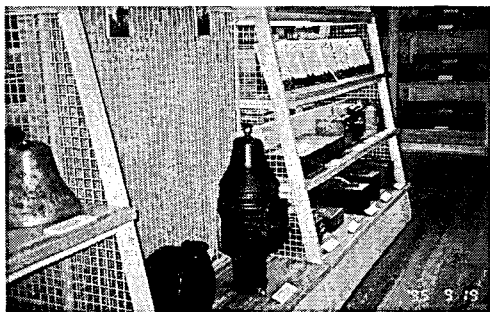
(文学・哲学博士)



## 館・園紹介 No.92

名古屋鉄道株式会社  
**名鉄資料館**  
〒509-02  
☎(0574) 61-0831

名鉄資料館は平成6年6月に名古屋鉄道創業100周年を記念して岐阜県可児市川合に開設されました。開設されてまだ1年有余の新しい資料館であります。



開設の目的は名古屋鉄道の100年の歩みを具体的な資料をとおして来館者の方々に直接感じ取っていただくこと、そして100年の間に使用され、時代的使命を終えた機械器具類、制服、制帽等を保管することにあります。

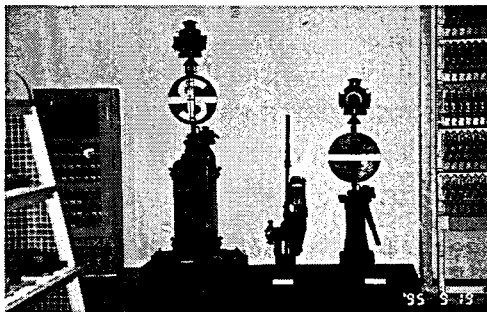
名古屋鉄道の研修機関である教育センター内に併設されており、当鉄道の職員研修にはよく利用され、名古屋鉄道で使用された実物資料を直接見ながら研修を受けることで運輸関係に携わるものとしてさらなる使命感も湧いてくることでした。



主な展示資料として、愛知馬車鉄道の施設願、昭和天皇の御召列車のダイヤ、尾西鉄道全通記念「徳利」、愛知電気鉄道沿線案内図、D-16型台車、タブレット閉塞機、文書類、乗車券、

被服等が展示されています。これらの資料は名古屋鉄道を退職された方や現役の方々に広く公募し、集められました。

開設して1年有余、資料館の運営は軌道にのりはじめたばかりであり、知名度はまだまどとのこと、しかし、鉄道関係の資料が数多く収集されており、展示も工夫されています。最近では、鉄道関係のマニアが全国から訪れ、熱心に見学され、専門的な質問もあるとのこと。



当資料館の沢田さんのお話では、今後は展示資料の充実をはかるとともに、鉄道に関する企画展や催し物も考えており、地域の人々との交流も大切にしていきたいとのことでした。

### ◆ 開館時間

- ・月曜日～金曜日 10:00～17:00
- ・土曜日 10:00～12:00

### ◆ 休館日

- ・日曜日、第2土曜日、国民の祝日、祝日の振替休日
- ・年末年始(12月31日～1月3日)

### ◆ 交通の案内

- ・名鉄広見線「日本ライン今渡」駅下車 徒歩20分 タクシー5分

### ◆ サービス内容

- ・図書、資料等の閲覧(無料)
- 但し、館外貸出はいたしません。

### ◆ ご利用できる人

- ・名鉄グループ社員、名鉄グループ退職者
- ・一般の方も無料でご観覧できます。

\*いずれも10名以上の場合は、事前に連絡して下さい。

### ◆ 責任者

國田 充 (教育センター部長)  
(機関紙委員 曾我 孝司)